

平成 26 年度拠点実習 アンケート調査の結果

山口 創

農牧場実習の学習効果や改善点を探ることを目的に、利用学生を対象にアンケート調査を実施した（有効回答 176 部）。

回答者の特徴

回答者の属性（表 1）をみると、性別では女性が 6 割、男性が 4 割程度となっており、やや女性の参加割合が高かった。また学年では 2 年生が 4 割近く、3 年生が 5 割を占め、この 2 学年による参加が 9 割を占めていた。

参加学生に、農業関係の経験（図 1）を尋ねた結果、「農業関係の活動の参加経験」では 8 割近くが「ない」と回答しているものの、「田畑の土に触れた経験」では 9 割以上、「農業体験や農場実習の経験」では 8 割程度が「ある」と回答しており、多少なりとも農業経験のある学生がほとんどであった。

表1 参加学生の属性

属性		度数	%
性別	男性	72	40.9
	女性	104	59.1
学年	1年	12	6.9
	2年	66	37.7
	3年	86	49.1
	4年	10	5.7
	大学院生	1	0.6
計		176	100.0

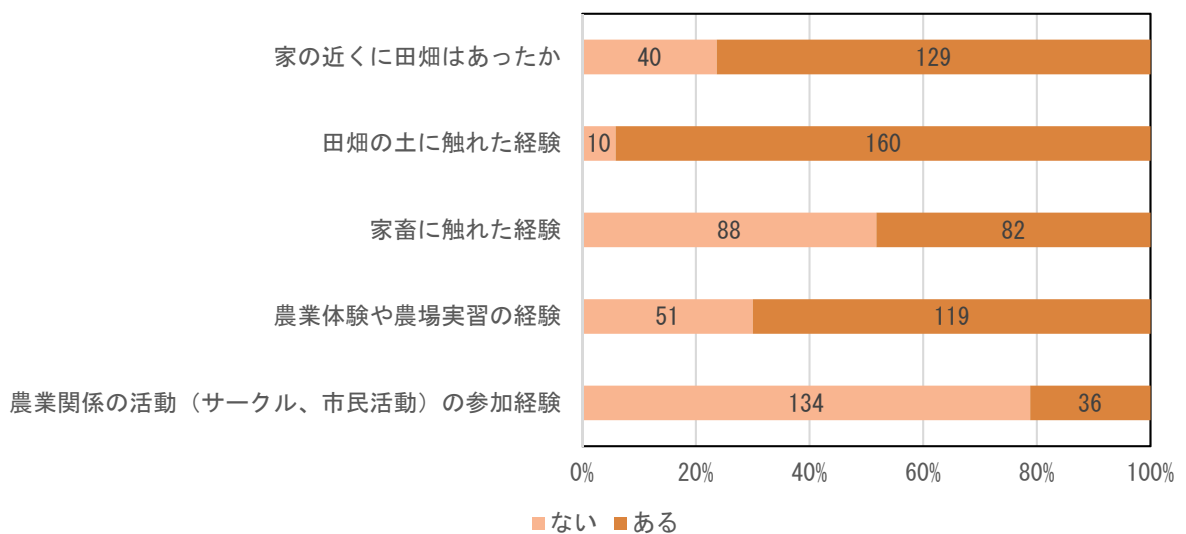


図 1 農業関係の経験

実習の参加動機

実習の参加動機を複数回答で尋ねた（図2）。結果、「農作業を経験したい」、「農業の技術や知恵を学びたい」や「食の安全や安心について学びたい」との回答が多く、農業や食に興味を持ち参加している学生が多い傾向がみられた。また、「教室で学べないことを経験したい」との回答も多く、漠然とした興味を持って参加している学生が多いと考えられた。

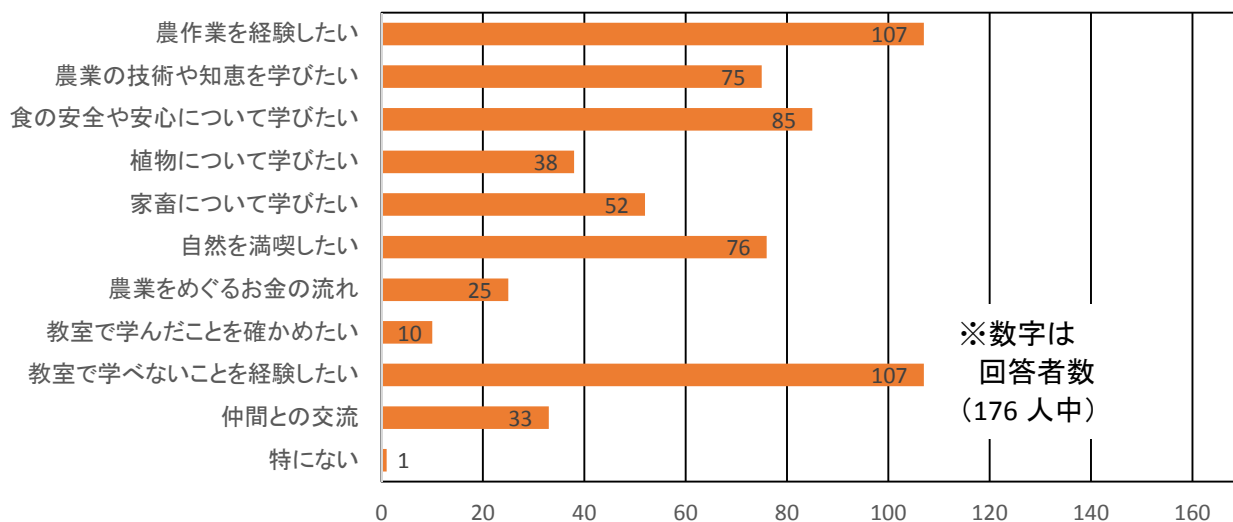


図2 実習に参加しようと思った動機（複数回答）

実習に参加して学んだこと

○考えの変化

実習参加による農業や食等に対する考えの変化を5段階評価で尋ねた。設問のうち、「農業についての興味が増した」、「食べ物を大切にしようと思った」、「動物や植物に対する興味が増した」については9割程度が「やや当てはまる」「非常に当てはまる」と回答しており、参加学生の多くは農業や食について興味が増していた。

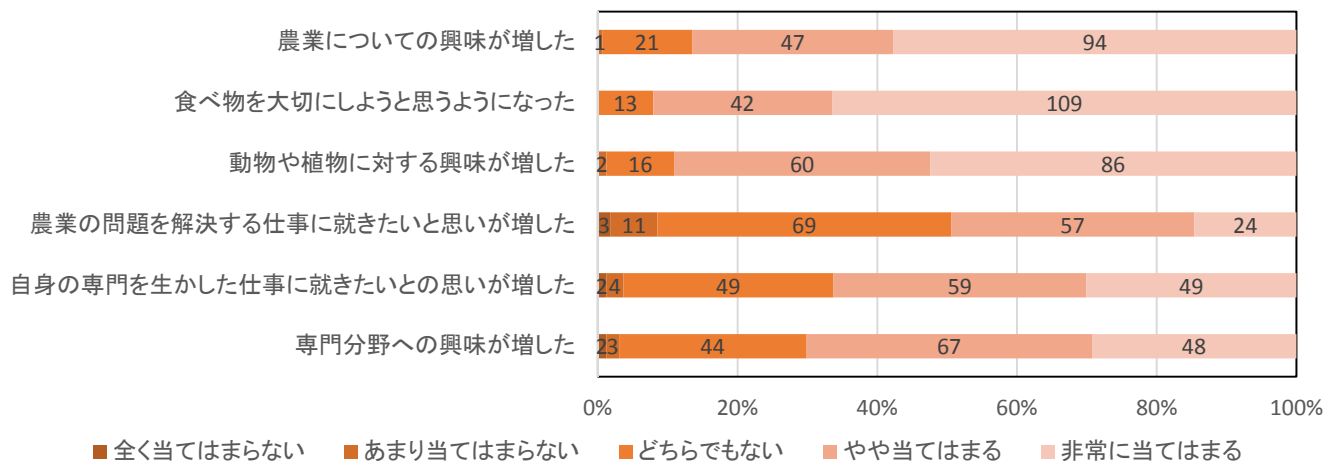


図3 実習参加による考えの変化

○学習効果

実習参加による学習効果をそれぞれ5段階評価で尋ねた。結果、「農業をめぐるお金の流れを学んだ」以外のすべての項目において、8割以上の学生が「やや当てはまる」「非常に当てはまる」と回答しており、高い学習効果を示していた。また「自身の専門分野の理解に役立った」においても、7割以上の学生が、「やや当てはまる」「非常に当てはまる」と回答しており、多くの学生にとって専門性を深める上でも効果があったと考えられた。

さらに、H25年度のアンケート結果と比較した（共通で調査をおこなった「農業の原理」「農業の技術や技能」「食の安全や安心」の3項目のみ）（図5）。その結果、H26はH25と比較して、3項目ともに「学んだ」に該当する割合は増加しており、実習による学習効果は高まったと考えられる。特に「食の安全・安心」については、H25年度は3割程度が「学んだ」と回答するに留まっていたが、H26では7割程度まで増加しており、特に効果が高まったと言える。

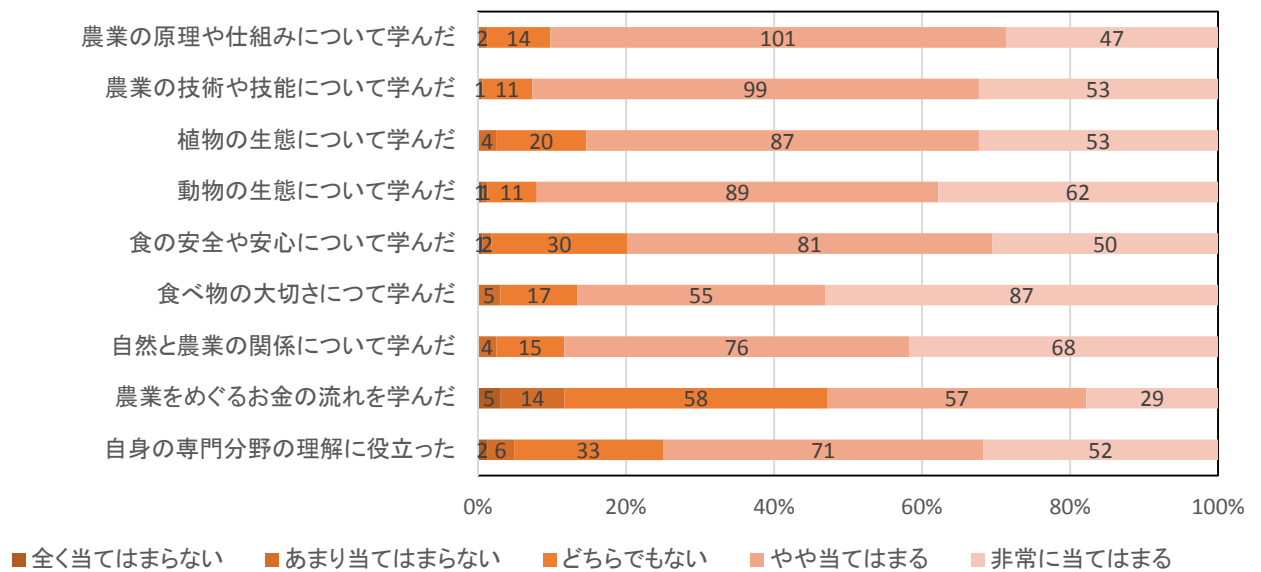


図4 学習効果（5段階評価）

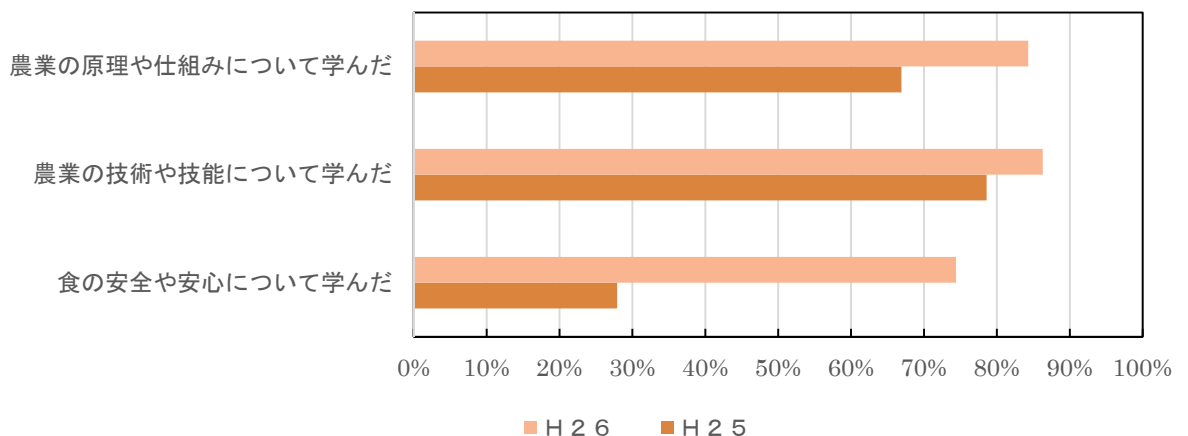


図5 学習効果の比較（「学習した」に該当する回答割合）

実習満足度（H25年度との比較）

実習の満足度を「実習内容」「休憩・宿泊施設」「総合満足度」の3項目で尋ねた。H26を見ると、「実習内容」「総合満足度」ともに、ほぼ全ての学生が「やや満足」「非常に満足」と回答していた。また「宿泊施設」に関しては、約3割が「やや満足」「非常に満足」と回答しており概ね満足されていたと考えられるが、H25と比較すると、やや満足度は低下している結果となった。

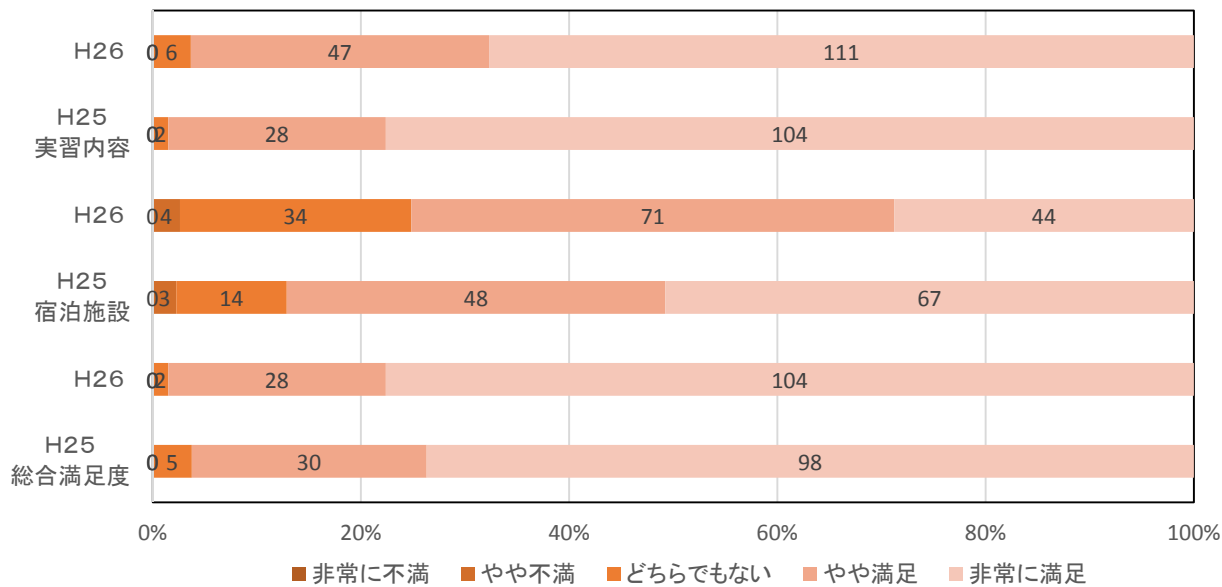


図6 実習満足度